



6/12 医々とも座談会での田邊先生

最期の過ごし方 〜どこでどう死を迎えるか〜

まめなかの

発行責任者
隠岐広域連立立
隠岐病院長
隠岐の島町城北町

内科 田邊翔太

病院・施設・自宅。皆さんは最期をどこで迎えたいですか？
隠岐の島町でこの質問をする。ほとんどの方は自宅と答え、八十%の国民が自宅で最期を迎えたいと思っていることがわかりました。では、実際の隠岐の島町民・国民の死亡場所はどうなっているのでしょうか。下表を見て下さい。

死亡場所	隠岐の島町	全国
病院	60%	80%
施設	20%	4%
自宅	10%	10%

病院死がほとんど…理想と現実がかけ離れていますね。それは何故でしょうか？
戦後の日本国民は八十%が自宅で死を迎えていました。看取りの場所が自宅から病院へ変化していったのは、国民皆保険の整備、医学の進歩、核家族化の進展や地域共同体の崩壊など多くの要因があったと言われています。隠岐の島も例外ではありません。
さて、現状は理解頂けたかと思いますが、日本では2060年に高齢化率40%を超え、年間死亡者数も現在より四十万人増加すると試算されています。今後訪れる超高齢化社会では、病院・施設・自宅のどこであろうとも「看取り難民」が増加することは明白です。そんな状況だからこそ、最

期の迎え方を今のうちから考えておくことは大切でしょう。
最期を迎える場所として、病院・施設・自宅が考えられますが、どのような違いがあるか見てみます。

＜病院で最期を迎える＞

長所…あらゆる医療行為が行える、24時間対応可能な（機械音、他人の騒音）、長期入院困難

＜施設で最期を迎える＞

長所…常時ではないが診察・看護が受けられる、静かな環境
短所…医療行為に限りがある

＜自宅で最期を迎える＞

長所…住み慣れた家、家族・親族でゆっくり過ごせる
短所…医療行為が行えない、介護者の負担になる、急変時の対応困難

以上のよう、それぞれ長所・短所があります。「どれだけの医療が受けられるか」というところに大きな違いがあります。

【隠岐の地域医療を考える住民活動研修会】 入場無料です

「隠岐の地域医療を知ろう！」

全国的に医師をはじめ、医療現場で働くスタッフが不足しています。
安心して暮らせる地域であり続けるために、隠岐の医療の現状を知り、みんなで出来ることを考えてみませんか。

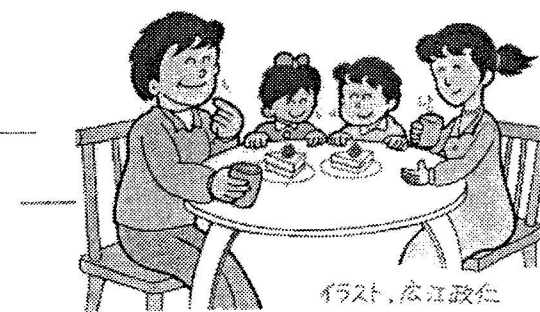
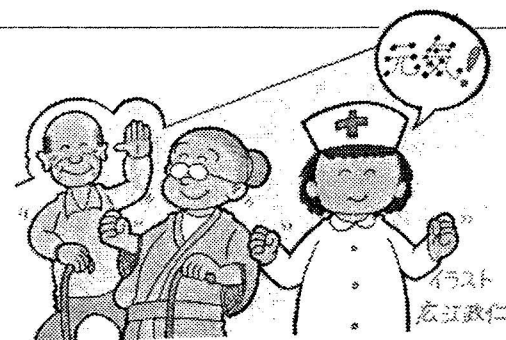
と き：平成25年7月13日（土） 13:00～（受付 12:30～）
と ころ：隠岐の島町ふれあいセンター（役場横）

第1部（13:00～14:40）

- 講演会 テーマ「地域医療における住民活動の役割」
講 師 島根大学医学部地域医療支援学講座 谷口 栄作 教授
- 事例発表 「雲南市における地域医療を支える住民活動の現状」
発表者 がんばれ雲南病院市民の会 矢壁 敏宏 氏
「飯南町における医療対策専門員から見た住民活動の役割」
発表者 飯南町医療対策専門員 五明田 祥司 氏

第2部（14:50～17:15）

- グループディスカッション
みんなで話しあいましょう



主 催：隠岐の地域医療を考える住民活動研修会実行委員会
（隠岐病院ボランティア「筍の会」 / 離島・隠岐の医療を考える会 / 隠岐の島町社会福祉協議会
隠岐保健所 / 隠岐の島町 / 隠岐広域連立）
後 援：島根大学医学部地域医療支援学講座 / 地域医療支援コーディネータ連絡会 / 島前病院ボランティアの会

「何かにかまれたら」と救急外来に駆け込んでこられる方もおられますが、まず何にかまれたかを救急外来で訪ねますので、よろしくお願いいたします。

また、咬まれた部位より心臓側をきつくしばってこられる方が多いですが、適切な強さ、適切な道具でしばることが困難であるため、しばるべきではないというのが一般的なようです。



この季節、当院救急外来には、マムシやムカデに咬まれた、ハチに刺されたと多くの方が受診されます。受診される際のワンポイントアドバイスを紹介しますのでご参考にしてください。

マムシ・ハチ・ムカデ にご用心!



時間がたつと、咬まれたところから心臓に向かって腫れがひどくなったり、痛みが強くなったり、場合によっては命に関わることもありますので、マムシに咬まれたらすぐに救急外来に受診してください。もっとも、マムシに咬まれないことが一番ですが、以前にマムシ血清を打った人は、再度使用はできません。受診の際にお知らせください。



ミツバチ、アシナガバチ、スズメバチなどが毒針でヒトを刺します。その部位に強い痛みを感じたあと、赤くなったり、腫れたりします。こうした反応は二、三日は悪化するものの一週間程度で治ります。

しかし、注意するのは、以前ハチに刺されたことがある人が、再度同じ種類のハチに刺されると、アレルギー反応で気分が悪くなったり、息苦しさを感ずることがあります。そのような場合は、一人で救急外来に受診しようとはせずに、周りの方と一緒に受診するようにしてください。

これまでハチに刺されてこのような症状があったことのある人には、病院受診する前に自分で注射をして治療する注射キットの携行が勧められています。

・ムカデについて

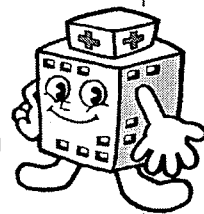
夜行性のためとくに夜間に咬まれることが多いですが、ほとんどが咬まれた部分の痛み、発赤、腫れといった局所症状のみで、発熱やめまいといった全身症状の出ることはまれです。

市販のヒスタミン軟膏を塗ったり、市販の痛み止めを内服して数日中に治ることが多いですが、痛みなどが激しい場合や全身症状が出ている場合は、救急外来を受診ください。

ご意見をお聞かせください

皆さまからのご意見などを募集しています。

ホームページ
http://oki-hospital.com
メール
Info-okiooki@oki-hospital



さて、私は自宅では医療行為が行えないと記載しました。皆さんもそう感じてもらえるかもしれませんが、しかし、訪問診療・訪問看護という制度を利用すると、自宅でもある程度の医療行為を行うことができます。例えば点滴、酸素投与、場合によっては医療用麻薬。また、急変時にも24時間体制でサポートできます。ご存知でしたか?

そう考えると介護サービスなども利用し、家族の負担を軽減しながら、自宅で最期を迎える十迎えさせてあげることが可能ではないかもしれませんね。

ここで少し視点をかえて「人生の最期に医療は必要か?」というところについても考えてみます。最期だからって何もしていないのはかわいそう、点滴をしてあげないと脱水になる、病院で薬を使えば良くなるのでは...というの一般的な意見だと思います。

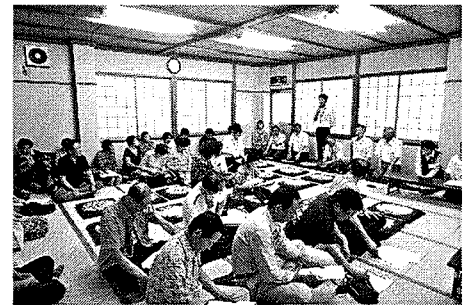
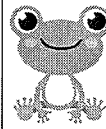
しかし、末期(看取りの段階)の患者さんは必要エネルギー・水分量が減少し、空腹感や口渴を感じることはほとんどありません。酸素がなくても苦しいと

感じないことも多いと言われていきます。薬を使ったからといって良くなることはほとんどありません。むしろ、針を刺す、酸素マスクをつける、無理に薬を飲ませることが逆に本人を苦しめることになっていくかも知れません。もちろん、最近話題になっている胃瘻(いろう)も同じです。

こんなことを考えていくと、どこで迎えるかはなく、どのよう

どんな最期を迎えることが良いのかは誰にもわかりません。それを決めるのは本人ですが、場合によっては家族・親族、時には地域の事情や社会情勢も影響してくるはずですが。

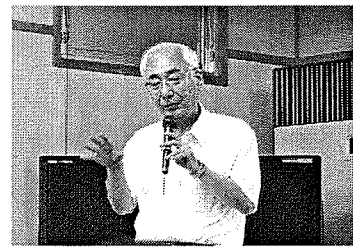
誰にでも必ずやってくる人生の最期。今のうちから家族で考えておくのも悪くはないと思います。今回の話が『どこで、どのような最期を迎えたいか』、それを考え、話し合う一助になれば幸いです。



「医々とも座談会」

・今年も巡回中・

6/12 唐井集会所にたくさんの方が来てくれました。



▲あいさつする小出院長

この座談会は、病院の現状や医療・保健に関しての発表や意見交換を行い、地域の皆さまに隠岐病院というものを理解していただくとともに、地域の皆さまとふれあい、病院を身近に感じていただけるよう六年前から開催しています。

皆さまの声を今後の病院運営に生かしたいと考えます。ぜひ、お誘いあわせで参加をお願いします。

次回は、都万森里集会所の予定です。
日時：七月二十六日(金)
午後七時